



 Data	2024-37
監督・脚本: 濱口竜介	
企画・音楽: 石橋英子	
出演: 大美賀均 / 西川玲 / 小坂竜士	
/ 渋谷采郁	

みどころ

ベネチアでの金獅子受賞は快挙！また、キム・ギドク監督と同じく三大映画祭の制覇もお見事だ。しかし、この大仰なタイトルは一体ナニ？

ドストエフスキーの小説『罪と罰』並みの根源的かつ哲学的なテーマ？そう身構えていたが、ストーリーは意外にもグランピング場開発を巡る物語だからわかりやすい。

舞台は美しい。また説明が丁寧なら、一人一人の人間の描写も丁寧。そのため極めてわかりやすい展開だが、ラストは意外にもアレレ、アレレ、全く想定外のあっと驚く結末に！

これはどう解釈すればいいの？私にはこれはちょっとヒネリすぎ・・・？

———— * ———— * ———— * ———— * ———— * ———— * ———— * ———— * ———— * ————

■□■濱口竜介監督が世界三大映画祭を制覇！こりゃ必見！■□■

『偶然と想像』(21 年) (『シネマ 50』163 頁) で第 71 回ベルリン国際映画祭の銀熊賞(審査員大賞)を、『ドライブ・マイ・カー』(21 年) (『シネマ 49』12 頁) で第 74 回カンヌ国際映画祭の脚本賞と第 94 回アカデミー賞の国際長編映画賞をダブル受賞した濱口竜介監督が、本作で第 80 回ベネチア国際映画祭で銀獅子賞(審査員大賞)を受賞！これによって、濱口監督は世界 3 大映画祭を制覇したことになるからすごい。また、これによって、『サマリア』(04 年) (『シネマ 7』396 頁) で第 54 回ベルリン国際映画祭の銀熊賞(監督賞)、『うつせみ』(04 年) (『シネマ 10』318 頁) で第 61 回ヴェネチア国際映画祭の銀獅子賞(監督賞)を、『アリラン』(11 年) (『シネマ 28』206 頁) で第 64 回カンヌ国際映画祭のある視点部門作品賞をそれぞれ制覇した韓国のキム・ギドク監督に並んだことになるから、さらにすごい。

もともと、事前情報によると、本作のきっかけは『ドライブ・マイ・カー』で意気投合

した音楽家の石橋英子氏が、ライブパフォーマンスのための映像を濱口監督に依頼したことからスタートしたそうだが、それって一体どういうこと？私は音楽家の石橋英子氏のことを全く知らないし、彼女の活動にも全然興味がないから、そんな制作過程によって完成した本作が“ヘンな映画”になっていないかが少し心配だった。しかし、それを差し引いても、本作は必見！ゴールデンウィーク中にシネ・ヌーヴォと第七藝術劇場が共同して「濱口竜介監督特集」を企画してくれたことに感謝！

■□■この大仰なタイトルはナニ？ストーリーは？■□■

『ドライブ・マイ・カー』は村上春樹の短編小説を元にしたものだが、それだけでは“材料不足”のため、そこに同氏の別の短編『シェエラザード』（14年）と『木野』（14年）を付け加えて（混ぜ合わせて）濱口監督自身が書いた脚本が絶品だった。それによって、とりわけ同作後半からの『ドライブ・マイ・カー』という邦題がいかにもピッタリするロードムービーが完成したわけだ。

それに対して、『悪は存在しない』と何とも大仰なタイトルを付けた本作のストーリーはナニ？ドストエフスキーを代表する小説『罪と罰』（1866年）は、前途有望だが貧乏な青年ラスコーリニコフが、社会の何の役にも立っていない大金持ちの老婆を殺して金を奪うことが許されるか？（本当に悪なのか）という根源的かつ哲学的な“問い”だったが、『悪は存在しない』と断言した本作のストーリーも、それと同じような根源的、哲学的なテーマを・・・？そう思っていると、チラシで紹介されている本作のストーリーは次の通りだからアレレ、アレレ・・・？

長野県、水俣町（みずびきちょう）。自然が豊かな高原に位置し、東京からも近く、移住者は増加傾向でごく緩やかに発展している。代々そこで暮らす巧（大美賀均）とその娘・花（西川玲）の暮らしは、水を汲み、薪を割るような、自然に囲まれた慎ましいものだ。しかしある日、彼らの住む近くにグランピング場を作る計画が持ち上がる。コロナ禍のあおりを受けた芸能事務所が政府からの補助金を得て計画したものだったが、森の環境や町の水源地を汚しかねないずさんな計画に町内は動揺し、その余波は巧たちの生活にも及んでいく。

■□■主演は？共演は？これならギャラはきっと安上がり！？■□■

私が見た濱口作品の一つである『ハッピーアワー（第1部、第2部、第3部）』（15年）（『シネマ37』117頁）は、素人俳優による“アラフォー4人組”の日常を描いたものだった。私が同作を鑑賞したのは、なぜ同作が第68回ロカルノ映画祭で最優秀女優賞を受賞したのかを知るためだったが、その答えはイマイチ発見できなかった。それに対して、『ドライブ・マイ・カー』の後半から準主人公になる専属運転手役を演じた三浦透子は素人に毛の生えた程度の女優だったが、全編を通じて舞台演出家として主演した西島秀俊は演技達人で有名な超人気俳優だった。

それに対して、本作の主人公、巧を演ずる大美賀均は？本作に2度も長時間にわたって登場する薪割りのシーンは見事なものだが、彼のセリフ回しは、『ハッピーアワー』で見た4人組の女たちと同じレベルの素人俳優だからビックリ！ホントにこんな俳優のこんなセリフ回しでストーリーが牽引できるの？西島秀俊のもらうギャラは高額だろうが、本作の主演として起用された素人同然の俳優、大美賀均なら、ギャラはきっと安上がり！？

■□■グランピング場建設の説明会から物語が進行！■□■

長野県の水挽町を舞台とした本作前半のハイライト(?)の1つは前述した巧による薪割りのシーンだが、もう1つは巧が“水源”からポリバケツに水を汲む風景だ。この水は水挽町の中で、自然に囲まれて暮らす巧の自家用とばかり思っていたが、実は・・・？

私は弁護士としてゴルフ場開発に伴う事件に何度も関与してきたから、本作のグランピング場建設をめぐる地元住民への説明会の風景は興味深い。チラシには前述のものしか載っていないが、パンフレットにはさらに次のストーリーも載っている。すなわち

やがて、プレイモードの社員、高橋（小坂竜士）と黛（渋谷采郁）が町の住民たちにグランピング場建設の説明をしにやってくる。この一帯の区長を務める駿河（田村泰二郎）をはじめ、巧や、東京から移住し町でうどん屋を営む佐知（菊池葉月）と和夫（三浦博之）、立樹（鳥井雄人）らは、まずは話を聞こうと説明会の会場へ向かうが・・・。

私の体験では、こんな説明会は、①説明会を開催したという行政へのエクスキューズと②反対派のガス抜ききの効用しかないものだが、さて本作では？

■□■クライマックスはなぜこんな展開に？その主人公は？■□■

本作の主人公、巧は全編を通じて謎めいた存在だが、決して人間嫌いとか世捨て人ではない。逆にいつもは不愛想だが、一人娘の花を迎えに行ったり、東京から説明もなしにやってきた説明要員の高橋と黛のために時間を取ってやったり、わざわざうどん屋に案内してやる等の、“人並みの付き合い”はできる男だ。また、薪割りに興味を持ってチャレンジしようとする高橋に対して適切にアドバイスすることもできるから、人間観察眼もそれなりにしっかりしているようだ。

そんな男だから、時々娘を迎えに行くのを忘れたりすることもあるが、巧は決して悪い父親ではなさそうだ。その上、本作のストーリーは前述のようにグランピング場建設の説明会を中心に展開していく分かりやすいものだから、それを見ている限り『悪は存在しない』という大仰なタイトルが登場してくる雰囲気は全くない。ところが、アレレ、アレレ・・・。

巧が高橋と黛にうどんをご馳走しながら話を聞いたり、水汲み場での水汲み作業を手伝わせたりしているうちに、少しずつ心の交流が芽生えてきたのは当然だが、そんな中なぜか“ある事件”が……。しかし、本作のクライマックスはなぜこんな展開になっていくの？それが私にはイマイチわからなかった。その結果いきなり訪れてくる“あつと驚くこの結末”は一体ナニ？それはあなた自身の目でしっかりと。2024（令和6）年5月9日記